

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [組織活動](#) | [労働組合と政治の関係](#) ②
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)
[▶ キーワード検索はこちら](#)

労働組合と政治の関係 ②

労働組合と政党との関係

労働組合及び政党に、その運動理念や政策の相違から、その関係を目的達成の手段組織と見なしたり、全く相互に関係しないというような考えまで、様々な見方と関係が生じています。

ここでは、特に問題となる「関係性」について考えます。

それは、左翼（共産主義）的労働運動、及び共産党の「労働組合」に対する見方です。

社会をどう見るかによって、理念や活動等、基本路線が大きく違ってきます。

一般的な労働組合（自由にして民主的な労働組合と呼ばれる）は、自主的・主体的な組織ですから、支配介入・干渉はあってはならないことです。

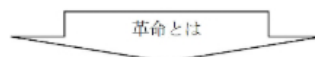
この立場の労働組合は、「資本主義社会には多くの欠陥・矛盾があり、弊害があるが、それは自由と民主主義のルールに基づき、改良と改善を積み重ね、より良い方向へ改革していく」と捉えます。したがって、民主主義に基づく改革路線となります。

政党との関係も、支持・協力、理念・政策の一致が原則となります。

左翼的労働運動は、「改良・改善では本質的な改革はできない。資本主義の下では、労働者は搾取され、生活は悪化の一途をたどる。したがって、それから解放されるためには、階級闘争と革命による以外にない」と言います。

このように捉えると、共産党の理念と一致し、労働運動が政治闘争化することとなります。

それでは、共産党は労働組合との関係をどう捉えているのでしょうか。「共産主義は、革命に重点をおきます。革命がなければ、共産主義の体制はできない」「共産主義の体制になってはじめて人間解放が実現する」と言います。



「これまでの資本家階級が掌握している権力を労働者階級が奪うこと。」

その革命の方法として、「階級」と「階級」の「階級闘争」による、階級闘争とは「ストやサボタージュ、デモ、集会など」で、社会をマヒさせ、社会を混乱させる、この機に乗じて**権力を奪取する(誰が? ※)**というものです。

レーニンが、労働組合を「**労働組合は革命のための学校である**」と定義しました。したがって、共産党は前衛政党として、指導する立場にあり、労働組合との関係を、共産党は労働組合の上部組織であり、労働組合は下部組織となり、共産党の目的を達成するための従属機関ということになります（従属関係）。

左翼的労働運動と共産党のリーダーは、このような理念を共有しているがゆえに、組織・目的・立場の違いを超えて共産主義に一体化させ、運動を構築するのです。

※共産党が（力で：武力を含め）

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

